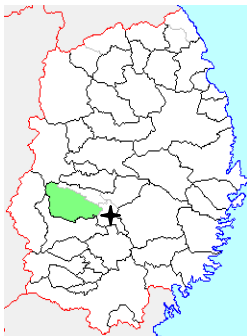


モデル事業名	農商工連携・動き出す土沢商店街プロジェクト
活動団体名	農商工連携・動き出す土沢商店街プロジェクト委員会
ホームページ	http:// (活動団体のHPのアドレス)
所属/ 担当者名	事務局 (土澤まちづくり会社内) / 渡邊佳洋
連絡先	TEL : 0198-42-1331 FAX : 0198-43-1201 E-mail : y-watanabe@comet.ocn.ne.jp
活動地域	岩手県花巻市東和町地区

### ● 活動地域の概要

- ◆人口の減少 … H7 国勢調査 : 11,123 人 H12 国勢調査 : 10,710 人 H21.9 月市民登録課調 : 9,991 人
- ◆高齢化率の増加 … H12 国勢調査 : 25.2% H17 国勢調査 : 32.3%
- ◆公営バスの見直し (年間利用者数) … H15 : 約 3.6 万人 H16 約 3.3 万人 H17 : 約 3.2 万人 H18 : 約 2.9 万人



【↑】町内における田瀬・浮田の位置図  
【←】東和町及び土沢の位置図

【↑】町内を走る公営バス

### ● 活動地域の課題

全国の他地域と同様、花巻市東和地区においても地域の担い手が不足し、コミュニティの基盤が弱体化している。中でも中心商店街は「街かど美術館」や「土澤ちょこっと市」等、何とかして地域の活力を取り戻そうと活動を続けているものの、来訪者の減少や担い手不足、売上減少といった課題を抜本的には解決できていない。また長引く不況により、地域課題解決の糸口が見えておらず、近い将来、限界集落ならぬ「限界商店街」とも言うべき状況が訪れるのではないかと危機感を感じている。一方、周辺農村地域においても、農業の担い手の高齢化、若年人口の流動化等により、コミュニティそのものの存続さえ危機的状況にある。また農業政策も大きな転換期を向かえつつあり、行政や農協に依存した従来の枠組みを超えて、それぞれの地域の個性を活かした自立型の取り組みが各地域で見え始めている。

かつて農家と商店は単なる売り買いの関係ではなく、それを越えた密な“つながり”があり、それが地域と地域を結ぶ大きな役割を果たしていた。しかしながら社会環境や経済情勢の大きな変化に伴い、かつての農家と商店の“つながり”が薄れ、無くなりかけている。そのような中で、東和地区を運行する市営バスは、農村部と商店街を結ぶ交通手段としてだけでなく、それらの地域間を結ぶ橋渡的存在として住民に長く利用されてきた。しかし現在は、平成20年度花巻市公共交通基本計画が制定され、これまでの運行に見直しがかかり、市営バスは朝夕の便のみ、日中の便は予約応答型乗合タクシーに移行する試験運行が実施されている。ただし予約応答型は、事前登録や週3回という回数制限、前日予約が必須条件となっており、普段公共交通を唯一生活の足としている高齢者にとって利用しづらい状況となっている。また、高齢者が多く利用している商店街にとっても、死活問題になりかねない。

このように、農村部と商店街のつながりを結ぶ役割を果たしてきた公共交通が大きく変わろうとしている今、商店街と農村部の今後の関係性を再び見つめ直す必要がある。

### ● 活動の内容

#### (全体)

公共交通の見直しを契機に地域の現況に則した農村部と商店街のあり方を探り、新たなつながりを築く。

#### (直近1年間の進捗など)

#### ◇平成21年度「新たな公」によるコミュニティ創生支援モデル事業により実施した事項

##### (ア) 地域の現況の確認と住民のニーズの把握

- ・買い回り品の購入地区や土沢商店街の利用状況、移動手段等に関するアンケート調査を実施した。

##### (イ) 農と商のあり方検討

- ・農村地区と商店街をつなぐコミュニティビジネスの展開手法として、グリーンツーリズムや離島キッチン的事例から学ぶワークショップを実施した。

##### (ウ) 農と商をつなぐ実験事業

- ・おしかけ商店街の実施

①浮田地区 (2/21) 参加商店数：14店

②田瀬地区 (2/28) 参加商店数：13店

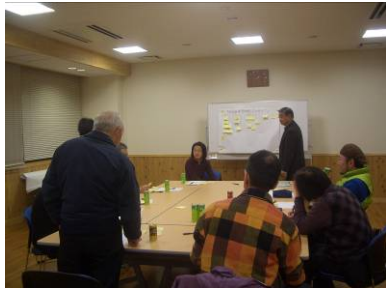
(エ) 住民発 農村地域と商店街の将来計画の検討

・平成22年10月より予約乗合タクシーが本格導入された。

#### ◇平成22年度における活動

・他地区で実施の要望があるかどうか聞き取り調査を実施予定。

・平成23年2月に再び田瀬・浮田の2地区で「おしかけ商店街」の実施を計画している。



・ワークショップの様子



・おしかけ商店街の様子 (浮田)



・おしかけ商店街の様子 (田瀬)

#### ● 活動の成果

##### ・全体

平成22年2月に実施したおしかけ商店街の反響が、当初の想定よりも多くの方に来訪いただいたこともあって、農と商の新たな絆をつくりあげていく自信につながった。

##### ・直近1年間の成果など

(活動の状況、地域内での反響・効果及び周辺への波及効果等について記入)

##### (ア) 活動の状況

- ・どのようにして必要経費を確保するか、予算面の課題はあるが、おしかけ商店街の活動は継続したいと考えている。
- ・いわゆる買い物難民である地区に対し、商店街がどうアプローチができるか考えるきっかけとなった。

##### (イ) 地域内での反響・効果

- ・おしかけ商店街が終わるや否や次期(平成23年)実施へ期待の声が田瀬・浮田の両地区から寄せられた。また同様に商店からも期待の声が寄せられた。
- ・おしかけ商店街での営業の甲斐があったか、企画を実施した地区から、仕出し屋さんへ注文が入ったという喜びの声が聞こえてきた。
- ・商店街の若手を中心に活動したことで、これまであった固定概念から抜け出すきっかけとなった。

##### (ウ) 周辺への波及効果

- ・昨年度、おしかけ商店街を実施しなかった地区においても、農村地域と商店街の結びつきをどう再構築していくか、特に農村地区から商店街への注目度が高い。

#### ● 今後の課題及び展望

##### ・課題(活動を通して発見された課題等を記入)

- ・今回の活動をどう継続していくか、以下の課題が残る
  - ①若手を中心とした運営団体の確立と活動資金の捻出
  - ②魅力ある企画(ただ商店が商品を持って行っただけではダメ)
  - ③地域行事(イベント)とジョイントしたおしかけ商店街実施(効率性と集客)
  - ④農村地区の協力体制(おしかけ商店街実施地区の振興センター、自治会の協力は不可欠)
- ・おしかけ商店街の実施時、販売場所に規制のある商品(酒類、薬)を、販売する方法がないかどうかの検討。
- ・公共バスに商店街の商品を乗せて走る企画が提案されたが、法制度等による制限等があるので、じっくり検討する必要がある。
- ・バス利用者の声を拾いづらい(利用者は生活弱者である高齢者で住民全体の数の内では少数)

##### ・展望(今後の取組みや検討について記入)

- ・高齢世帯の見守りも兼ねた「買い物難民」向け御用聞きサービスの検討
- ・無理せず活動を続けられる体制をつくること(継続が大事)

#### ● その他(自由記述)

- ・将来の先行きに、前向きなビジョンが見出せない中、当事業をきっかけに“何かやってみよう”という意欲を育てていくことで、さらにステップアップし、地域の活力を向上させることができる。